

令和 2 年度 学校評価の評価結果及び改善方策等について

1 令和 2 年度に向けた改善方策の実施結果について

令和元年度の学校関係者評価に基づき、前校長により策定された令和 2 年度重点目標及び改善の方策について引き継いだ。現校長は、それらを受けて、令和 2 年度学校経営計画を以下のように策定した。

今年度の重点目標

(1) 基礎学力の定着

- ①ユニバーサルデザインの指導や環境整備を徹底し、「分かる授業」を実践しながら、児童が学びの成果を実感できるようにする。
- ②授業改善推進プラン等に基づく組織的な授業改善や I C T を活用し、授業の質の向上を図る。
- ③ 3・4 年生は【英語に慣れる】、5・6 年生は【英語に親しむ】ことを目標に外国語活動や外国語科について、英語専科を中心に一貫・継続した指導を行う。また、国語との連携を図り、日本語の特徴や言語の豊かさに気付く指導を充実する。
- ④プログラミング教育を各教科の年間指導計画に位置付けて実践する。
- ⑤きはだ（肢体不自由）くすのき（知的固定）併設のメリットを生かし、校内委員会を適時、実施して特別な支援を要する「困り感」を抱えた児童を共通理解し、支援を充実することや共生社会での自立を目指したインクルーシブ教育システムの構築等の特別支援教育の充実を図る。

(2) 健やかな心と体の育成

- ①Q-U テストを活用し、学級集団の状況を分析し、支援が必要な児童の状況を分析し、学校や学級の居心地感を高める。
- ②「遊び」や体育の授業を充実し、体力や運動能力の向上を図る。また、オリンピック・パラリンピック教育を充実し、2021 年に実施予定の東京オリンピック・パラリンピックへの意識の醸成を図る。

(3) 言語活動の充実と言語能力の確実な育成

- ①児童が主体的に読み、表現する力を育成するために、説明的な文章の学習を通して、児童の国語力を高める研究を推進する。
- ②発達段階に応じた語彙の確実な習得、意見と根拠、具体と抽象を押さえて考えるなど、情報を正確に理解し、適切に表現する言語能力を育成する。また、学習の基盤としての言語活動の充実を図る。

(4) 生活指導や道徳教育、豊かな感性を育む教育の充実

- ①学習規律や基本的な生活習慣を身に付けさせるために、「松沢小のあいうえお」等の松沢小スタンダードを徹底し、生活指導の充実を図る。
- ②道徳的価値を自分事として理解し、多面的・多角的に深く考えたり、議論したりする「特別の教科 道徳」を充実する。

- ③芸術教科及び日本の伝統や文化に関する学習活動を通して、豊かな感性を育み、日本人としてのアイデンティティの基礎を確立する。
- (5) 体験活動の重視
川場移動教室や日光林間学園の宿泊学習、校外での学習の充実を図るとともに、地域・保護者・企業等、外部の教育資産（アウトソーシング）を活用し、体験を重視した学習活動を推進する。
- (6) 特別活動の重視
特別活動は、児童の自主性・自律性を高め、自己有用感の育成を図る絶好の教育活動である。それらの活動を通して、社会に貢献する態度や能力を培う。
- (7) 安全・安心の確保
学校が児童にとって安全で安心して過ごせる場とするために、いじめ対策や不登校への対応、アレルギー疾患への対応を組織的に行う。
- (8) 地域運営学校としての充実、保護者や地域との連携
- ①地域運営学校の機能を充実していくためには、教員も地域の行事等へ参加することを通して、保護者や地域との行動連携を図る。基本は、地域や保護者とのあいさつから始める。
- ②松沢中との小中連携や赤堤小との小小連携、近隣、幼稚園・保育園との教員や児童・生徒の交流活動を積極的に展開する。
- (9) 組織体としての学校機能の発揮
様々な課題に一人一人が抱え込むことなく、全教職員が学校としての一貫した方針に基づき指導に当たったり、迅速かつ組織的に対応したりする。教育内容や時間の適切な配分、必要な人的・物的体制の確保などを通して、教育課程に基づく教育の質を向上させ、学習効果の最大化を図るカリキュラムマネジメントを実施する。
- ①学校運営組織の活性化を図るとともに、課題の検討に当たっては、前年踏襲をやめ、スクラップ＆ビルドを基本に検討する。
- ②校務運営を日常におけるOJTとする。各部会や全体への情報伝達において「分かっていると思うが、確認をする。」を信条に、綿密なコミュニケーションを図る。
- ③若手教員は、近い将来、東京都の教育を支えていく人材である。仕事（研究）には厳しく、そして厳しさの中にも温かな人間関係の中で育てていく。
- ④管理職は、教職員と共に働き方改革に資する提案を検討していく。

これらの重点目標に基づき、今年度の具体的な方策50項目を定め、教職員の自己申告書との連携を図り、実践してきた。実施結果については次項目で述べる。

（令和2年度学校経営計画については、別紙参照）

2 自己評価結果

別紙「令和2年度 自己評価結果」を参照

3 令和3年度に向けた重点改善項目

令和2年度学校経営計画に基づく、自己評価結果から以下の点について次年度、重点的に改善策を実施する。

番号	評価の観点	改善策
7	東京ベーシックドリルを活用し、4年生までに身に付ける学習内容の定着を図るとともに、4年生以上で定着度診断調査を行う。	・ベーシックドリルの活用計画を立てる。 ・学年では、授業や夏の補習でベーシックドリルを活用できなかったため、今後はモジュールや学期末の復習として活用できるように、印刷しておく。 ・朝活動にベーシックドリルを活用することに統一する ・夏季補習やモジュールなどで活用する。 ・取り組んだ後に学年でフォローする時間をもつ。
1 1	体力及び運動能力テストの結果を分析し、課題を明らかにして体づくり月間を充実させ、休み時間にも運動に取り組めるようにしたり、体育の指導内容の重点化を図ったりして体力や運動能力の向上を図る。	・体力テストを実施できていないので、課題を明確にした体づくり月間ができていない。（体づくりは、クラスの授業で実施） ・来年度は兄弟学年で実施する。
1 2	オリンピック・パラリンピック教育の実践を通して、児童に意識の醸成を図る。	・オリンピックが延期になったので、できなかった。来年度は子供に意識させるような授業を取り入れる。 ・2021開催に向けて、計画的に実施する。
2 2	児童の日常の清掃活動に力を入れるとともに、各分掌が連携して、ごみのない清潔な校内・外の環境を維持する。	・感染予防（密を防ぐ。）で来年度も清掃時間は確保できない。 ・帰りの会でゴミ拾いをするなど児童に意識付けをする。
3 5	学校と地域が双方向での協力関係を構築するために、教員が地域やPTAの行事に参加し、保護者・地域の願いや期待を知る。	・今年度は、コロナ感染のため参加できていない。 ・次年度に期待する。
3 8	幼稚園・保育園との交流を推進し、スタート・カリキュラムを実践する。また、松沢中学校や赤堤小学校との交流を深め、幼保小中の連携を図る。	・スタート・カリキュラムは実施した。幼小交流は、今年度は難しいと考えている。松沢中と赤堤小との交流はコロナ感染予防のため実施していない。 ・次年度に期待する。

4 令和3年度 学校経営計画

令和3年度も新型コロナウイルス感染症対策を講じる必要がある。「3 重点改善項目」に視点を置きながら、別添「令和3年度学校経営計画」に基づき、バランスよく本校の教育活動を改善・推進する。